

私は、幼少期から親に国内外問わず旅行に連れて行ってもらう機会が多く、その旅先で様々な鉄道や、公共交通機関を利用する中で、「乗り物ってすごく面白い」と感じていました。中学生の時には、京浜急行電鉄の「歌う電車」と呼ばれていたあの独特なインバーター音を聴いて、「どうしてこんな遊び心があるんだろう」と思いました。鉄道が意外とエンターテインメント性に富んでいて、視点を変えたら多くの新たな発見ができると気づいて、そこから鉄道を特に意識して乗るようになりました。

地下と言えば、青函トンネルの体験坑道駅に行ったことがあります。本当に世界で一番海の深いところにある駅で、現在はケーブルカーを使って観光目的で訪れることができます。訪れてみると「よくあの時代に、これをここに造ろうと思ったな」と感心し、大量の海水を排水する処理技術にも驚かされます。青函トンネルには新幹線はもちろんですが、過去に寝台列車でも通ったことがありま

す。その際に途中の竜飛定点と吉岡定点を通過すると、真っ暗の中でも外の雰囲気が一瞬変わるのを感じたことがありました。特に、途中で降りることができない場所でもあり、何があるのか外から見えない未知の世界という雰囲気がすごく興味深くて、とても面白いと思ったことがあります。

外の雰囲気が変わる…トンネルの中でもなんとなく開けた空間が、走行中のことなので本当に一瞬ではあるのですが、ちょっと音が抜ける感じというか、車内にいてもそれまでの走行音が、またぐっと広がるというか、空気の密度が変わるような感覚もあります。

地上を走ってる電車と地下鉄に乗っている時とで電車の楽しみ方が違います。地下鉄では、外の様子は見えませんが、急カーブであったり、地下の中でも上がったり下がったりもあります。東京の地下鉄路線の立体模型を見たことがありますが、急な角度で曲がったり、上下に交差

したりしていて本当に複雑ですね。「今どこにいるのか」「地上がどんなところなのか」「他の路線とどのような位置関係にあるのか」、自分の知識と想像で見えない部分を意識していると、なんというかロマンを感じます。

地上の電車では、当然景色も込みで楽しむっていうのもありますが、逆に見たい情報がありすぎるとも言えます。地下鉄では音や体感に、より集中できるので、異なる楽しみがあります。

普段、地下鉄ではスマートフォンを見たり、車内のビジョンを見たりして過ごされる方が多くいらっしゃると思います。でもちょっと車窓に目を凝らしたり、外の雰囲気を意識して感じてみてください。すると「あのパイプなんだろう?」「ここちょっと広くない?」「こんな形どうして?」、駅に着いても「この路線だけどうしてこんなに階段を降りないといけないのだろう?」など、意外とまだまだ知らない部分に気づくと思います。そして見えてきた・感じたこ

とを追求したら、もっともっとその面白さを知れると思います。地下鉄だけに深掘りと言いますか、より深く知っていただけたら、地下鉄の楽しみ方が変わってくるのではないかと思います。

今、JR上越線の土合駅に行くと、本当に多くの方がいらっしゃっていて、おそらく鉄道ファンではないだろうという雰囲気の方も多く、本当にちょっとしたテーマパークのような、一つのイベントとして楽しまれてる方も多くなりました。そのような場所に行ってみて意識して見たり感じてみると、もしかしたらこっち側に…。知らないだけで、もしかしたら自分が好きな感覚と似てることに気づくかもしれません。土合駅のような有名などころからでもそうですし、近くにちょっと面白そうな駅があったら行ってみると新たな発見が広がるのではないのでしょうか。

青函トンネル記念館 体験坑道 (写真: 鈴川 絢子)

特集

地下の知られざる世界

MESSAGE

地下を走る鉄道の魅力



鈴川 絢子
SUZUKAWA Ayako

プロフィール

1991年3月25日生まれ 千葉県出身、2011年デビュー。鉄道好きタレントとして公式YouTubeチャンネル『鈴川絢子チャンネル』をメインに、多方面で活動中。2022年より習志野市PR大使にも任命されている。著書には『鉄分多め。ー関東編ー』(ヨシモトブックス)がある。